

基礎基本を身に付け、 やる気をもって学ぶ子を育てる指導の工夫

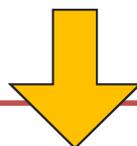
—主体的に知識技能を習得、活用する
国語科説明文教材の授業づくりを通して—

上越市立美守小学校 支援チーム

岡村	祐介	(M1)
小川	高広	(M1)
佐藤	慧	(M2)
松本	修	(アドバイザー)

上越市立美守小学校

- ・三和区 自然豊か
- ・7学級 全校児童69名
- ・健康体育教育の推進
- ・地域の方の協力があつい
- ・昨年度まで算数を研究



◎研究主題(下線部は学校の重点目標)

基礎基本を身に付け、

やる気をもって学ぶ子を育てる指導の工夫

—言語活動を充実させた

国語科「説明文教材」の授業づくり—

◎研究主題

基礎基本を身に付け、やる気をもって学ぶ子を育てる指導の工夫
—言語活動を充実させた国語科「説明文教材」の授業づくり—

◎支援の内容

① 校内研修への参加

説明文教材における単元づくりの要点の共有

→ 松本先生から単元づくりの講話

② 授業構想検討

→ 教材+児童の興味関心・実態を踏まえ、探究的な課題を設定

③ 研究推進委員会による指導案検討会への参加

④ 授業者との毎時間のリフレクション

⑤ 公開授業参観、協議会参加

◎研究主題

基礎基本を身に付け、やる気をもって学ぶ子を育てる指導の工夫
—言語活動を充実させた国語科「説明文教材」の授業づくり—

やる気をもって学ぶ子

- ・探究的な課題の設定(松本 2012)
- ・態度目標(難波 2011)

説明文教材の授業

- ・書きをも含めた読解力(浜本 2005)
- ・形式と内容の統合(松本 2013)

基礎基本を身に付け

- ・身に付けたい知識・技能の焦点化
→**練習ステップ**

言語活動を充実

- ・コミュニケーションの重視
- ・メタ認知の機能(井上 2007)

さらに、「**単元づくりの手順**」(松本 2012)に依拠し、次の4点に整理

◎研究主題

基礎基本を身に付け、やる気をもって学ぶ子を育てる指導の工夫
一言語活動を充実させた国語科「説明文教材」の授業づくり

授業づくり 4つの視点

- ①探究的な課題の設定
- ②単元で身に付けさせたい
知識・技能の明確化
- ③知識・技能の焦点化
ー練習ステップ
- ④交流活動の設定
ーメタ認知の機能

支援の経過

- 9月 3年生 「ミラクルミルク」
- 11月 1年生 「じどう車くらべ」
- 5年生 「天気を予想する」
- 4年生 「アップとルーズ
で伝える」

※ 3年生の授業支援を通して、4つの視点が明確化
4つの視点による授業支援と、授業分析を行った

〈1年生における授業支援〉

単元名「じどう車ずかんをつかって、ぜんごうのみんなにはっぴょうしよう」

教材名「じどう車くらべ」 （第1学年 9名 全10時間）

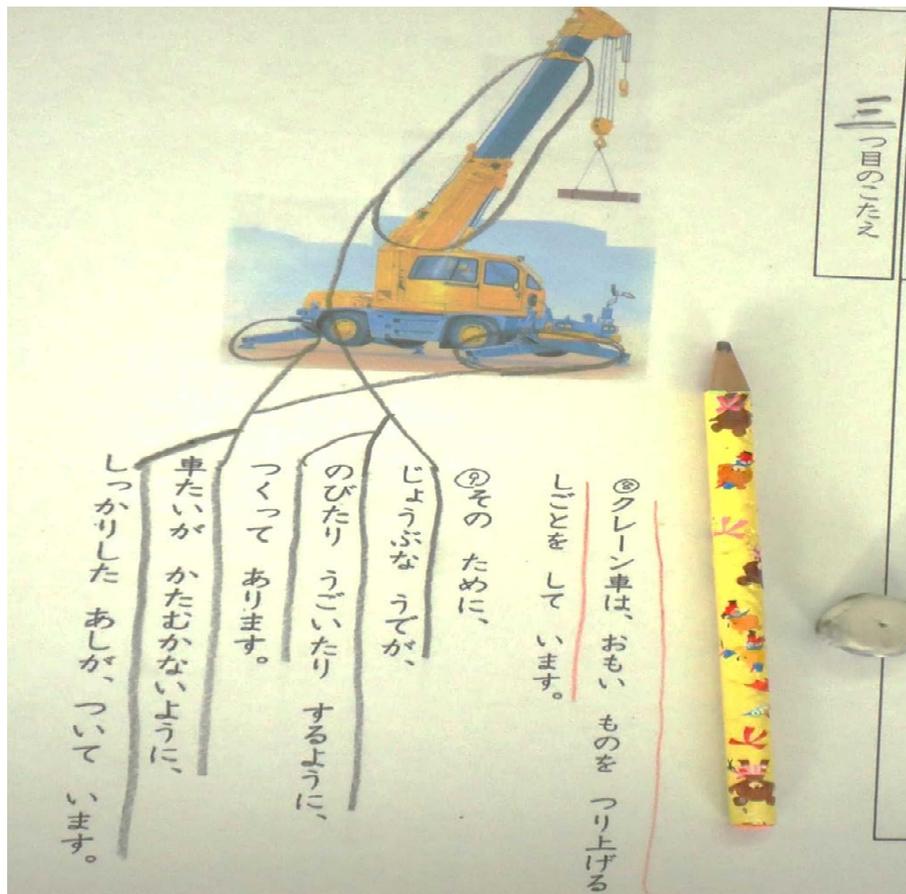
視点② 〈単元で身に付けさせたい

知識・技能の明確化〉

○ 知識・技能

→ しごと(機能)とつくり(形態)の関係性を捉える

本文と絵を結び形態(つくり)を正しく捉える

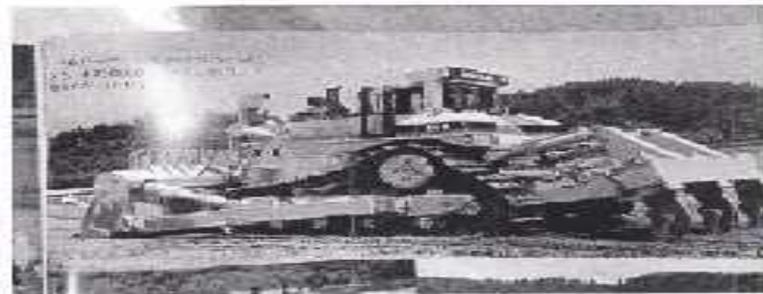


線を引くことで分かった気になっている可能性がある
→丸で囲ませることで、はっきりしてくる

児童が書いた「じどう車ずかん」



ていませう。	がせ る か い せ し く と う が こ こ	ま あ り に は と か こ こ に と う な り と	⑤		ほ が の く る ま と ま さ が る さ し に め い	⑤
--------	---	---	---	--	--	---



ていませう。	がせ る か い せ し く と う が こ こ	ま あ り に は と か こ こ に と う な り と	⑤		ほ が の く る ま と ま さ が る さ し に め い	⑤
--------	---	---	---	--	--	---

どちらも表現が異なるが形態と機能の関係性を適切に捉えている

視点④ 〈交流活動の設定—メタ認知の機能〉

○ 交流場面

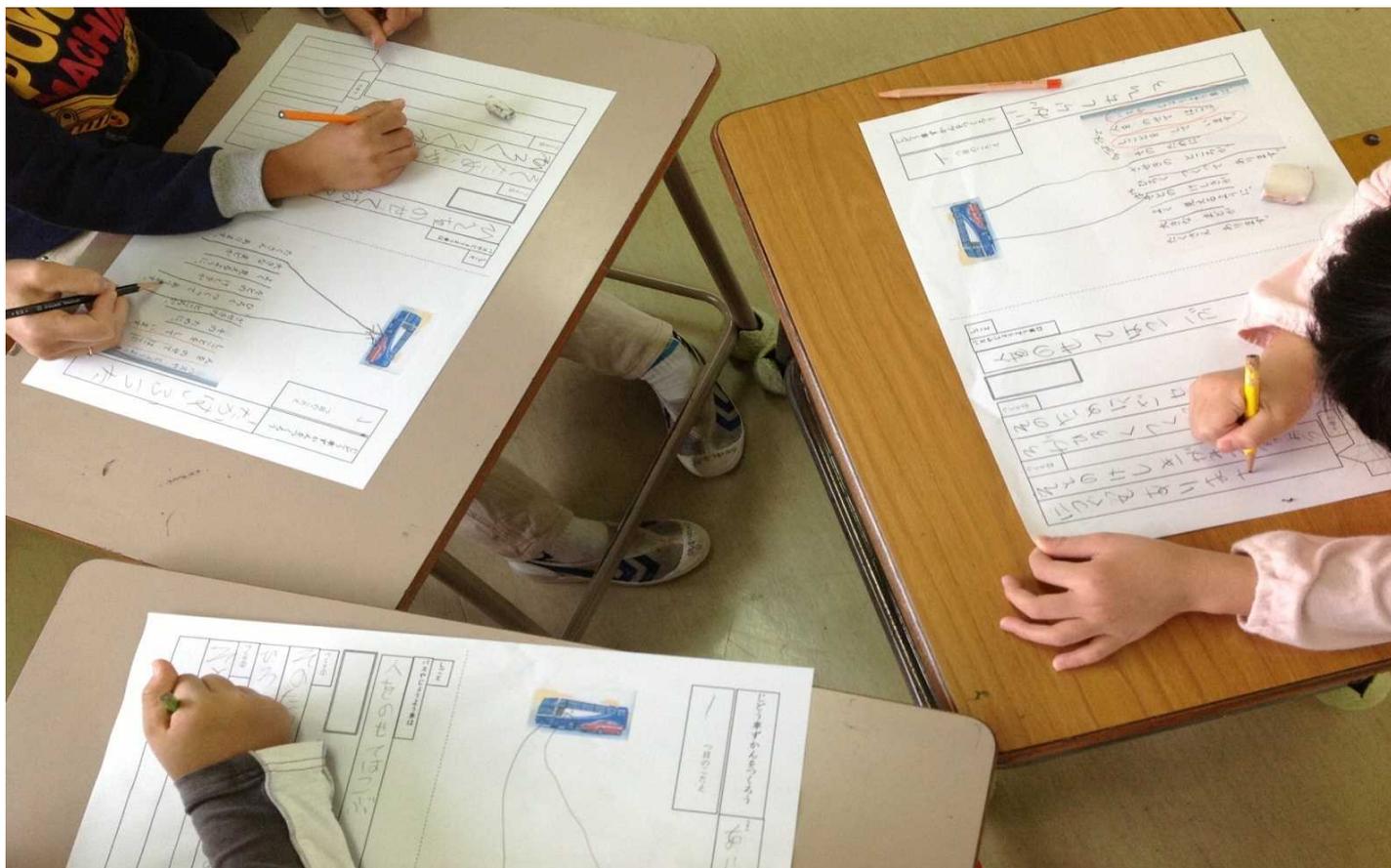
→その「つくり」になっている理由を述べる活動を
何度も行う

消防署ではしご車の見学



体験活動が土台となって、関係性の理解が促された

グループ活動の様子



- 体験や知識を生かした意見が多く見られた
- 関係性の誤りを取り上げて考えさせる

〈4年生における授業支援〉

単元名「説明の仕方について考えよう」

教材名「アップとルーズで伝える」 （第4学年 9名 全8時間）

視点① 〈探究的な課題の設定〉

○ 総合的な学習の時間と関連

→「白山のよさを3年生に伝える

ガイドブックを作ろう」



単元の導入…モデル文と写真の対応の検討

アップ



ルーズ



どちらがいいか考えさせる

白山の良さを伝えるモデル文

白山の楽しさ① 「カタクリの花」 編
春になると様々な花が白山にはさきます。その中でも特に
キレイなのはカタクリの花です。いい時に白山に行けば、お
花畑のように一面にたくさんの花が咲いています。一面がむ
らさき色になって、春が来たことを感じられると思います。

教材文を読んでいく目的が明らかになった

視点② 〈単元で身に付けさせたい 知識・技能の明確化〉

○ 知識・技能

→「内容」か？ 「形式」か？



・思考操作技能としての「対比」

アップとルーズ、メリットとデメリット、分かることと分からないこと
「対比」という方法知をメタ認知→他の場面へ転移が図られる

・「論理的表現方法」への気付き

文章から中心となる叙述を一つ選ぶ

アップでとったゴール直後のシーンを見てみましょう。
①
ゴールを決めた選手が両手を広げて走っています。ユニ
②
ホームは風をはらみ、口を大きく開けて、全身で喜びを
③
表しながら走る選手の様子がよく伝わります。アップで
④
とると、⑤
細かい部分の様子がよく分かります。

①②④
具体的に述べた叙述
⑤
まとめの叙述

形式 = 筆者の述べ方

内容を読み取ることが目標

→ 筆者の述べ方(形式)を表現に生かしたのではないか?

〈5年生における授業支援〉

単元名「説明のしかたについて考え、意見文を書こう」

教材名「天気を予想する」 （第5学年 17名 全10時間）

視点③ 〈知識・技能の焦点化—練習ステップ〉

○ 知識・技能

→①「問い」と「答え」を繰り返しながら主張する論展開

→②目的や意図に応じ図表を用いながら主張すること

→**図表の活用に焦点化し、練習ステップを設定**

5年生における授業支援〈知識・技能の焦点化—練習ステップ〉

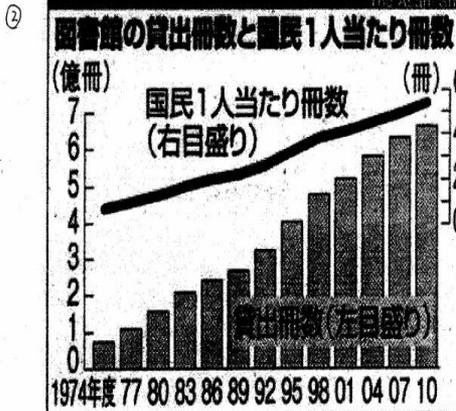
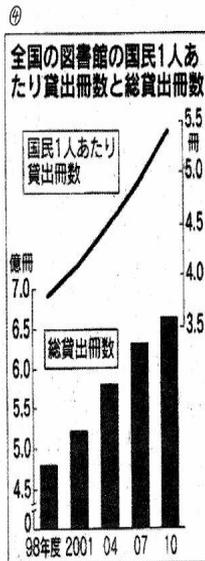
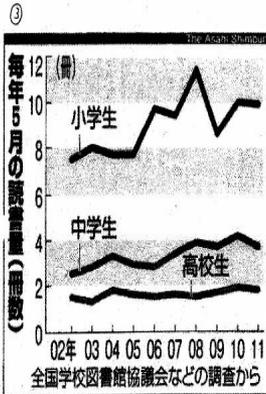
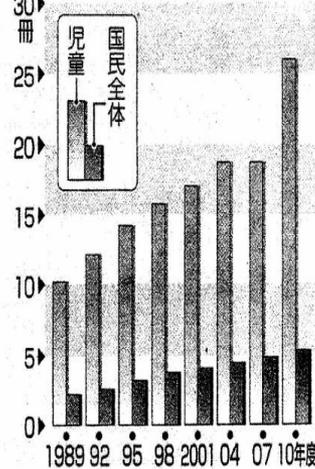
記事に合う資料を選択する

図書館の国民・児童1人当たりへの貸出冊数

年度	国民1人当たりへの貸出冊数	児童1人当たりへの貸出冊数
1989	2.2	10.2
1992	2.6	12.1
1995	3.2	14.2
1998	3.8	15.8
2001	4.1	17.1
2004	4.5	18.8
2007	4.9	18.8
2010	5.4	26.0

「文部科学省 H23年度社会教育調査中間報告」より作成

国民、児童1人当たりの図書貸し出し冊数



文部科学省は31日、2010年度に全国の小学生が図書館から借りた本が1人当たり26・0冊で、1974年度の調査開始以来最も多くなったとする社会教育調査の結果を発表した。前回の07年度調査の18・8冊から大幅に伸びた。国民全体の1人当たりの年間貸し出し数も5・4冊(前回4・0冊)と過去最高だった。

「子ども離れ」と言われる中で貸し出しが増えた理由について、文部科学省は「漫画で歴史を学べる本など読みやすい本が図書館に増えたためではないか」と分析している。各館が借りられる冊数の上限を引き上げていることや、普及型端末による新刊本の買入れ増も背景にあるとみられる。

調査によると、全国の公立図書館が10年度に貸し出した本は6億6360万冊。小学生1人当たりの貸し出し冊数は、80年度に10冊合に乘った後、徐々に増加する傾向にあったが、今回初めて20冊台に達した。

昨年10月時点の図書館数は3274館(前回3133・4館増)、職員数は3万6246人(前年3・3%増)で共に過去最高。一方、専任職員の割合は34・4%にとどまり、90年代の80・2%から減少傾向が続いている。

「日本全体で読書が盛んになり、任意の時間帯で貸し出し図書館を維持するため、非常勤職員を雇用している」という。(今谷 隆)

学校の図書室は調査の対象外。貸し出し冊数など一環の項目では、東京都、宮城、福島3県分は含まれていない。

図書館貸し出し

10年度調査 漫画増や不況影響か
児童1人26冊過去最高

記事に合う資料を選択する 実際の児童の意見

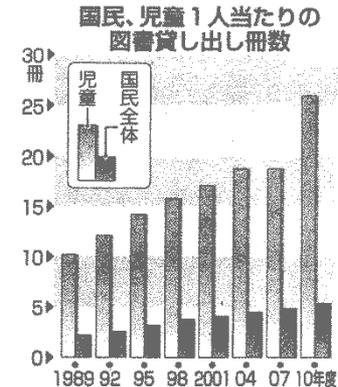
1

図書館の国民・児童1人当たりへの貸出冊数
(冊)

年度	国民1人当たり への貸出冊数	児童1人当たり への貸出冊数
1989	2.2	10.2
1992	2.6	12.1
1995	3.2	14.2
1998	3.8	15.8
2001	4.1	17.1
2004	4.5	18.8
2007	4.9	18.8
2010	5.4	26.0

「文部科学省 H23年度社会教育調査中間報告」より作成

5



40AR ここ(5)では比べてないから、1にしました。
→情報の掲載量・2
列表の比べやすさを重視

49MK 上がった感がある。
→資料の視覚的な
効果を重視

児童の成長

☆表現者の立場から資料を選択

「表」 → 詳しい情報が載っている

「グラフ」 → 情報を視覚的に訴える

どのような資料を加えれば自分の言いたいことが伝わりやすくなるのか

成果と課題

〈探究的な課題の設定〉

成果：単元のはじめに学習のゴールを示すことで、児童は目的意識を明確にもち、授業に臨むことができた。

課題：他教科と連携させた多様な単元デザイン。

〈単元で学習すべき知識・技能の明確化〉

成果：説明文教材の形式と内容を統合するために、内容を読み取る過程で形式に気付き、自身の表現へ生かしていく学習過程の有効性。

課題：教材の論理性を捉える過程の思考力を知識・技能と位置づけ、それを活用する場の設定。

〈知識・技能の焦点化―練習ステップ〉

成果：知識・技能を焦点化し、習得を図る練習ステップを設定したことは、表現活動を伴う探求的な課題の解決に有効。

課題：説明文教材から授業者が知識・技能及びそこではたらく思考力を児童に認識させる工夫。

〈交流とメタ認知〉

成果：比較活動などを課題として与えることで、交流場面における学習者の主体性を生み出すことができた。

課題：学年の発達段階に応じて、交流の目的を明確にする必要がある。系統的な指導のために、カリキュラムや学習過程に意図的・計画的に交流活動を設定する。

引用・参考文献

- 松本修:「言語活動をどう捉え、どう組織するか」, 『Groupe Bricolage 紀要』, No.30, pp.11-13, Groupe Bricolage, 2012.12.
- 難波博孝:「学習指導要領から考える、言語活動がある授業づくり」, 『RISEいんぐ』, No.5, p.10, 学校教育研究所, 2011.
- 浜本純逸:「考える力と表現する力を育てる国語教育」, 『月刊国語教育研究』, No.396, p.4, 日本国語教育学会, 2005.4.
- 松本修:「読むことの教材論研究の成果と展望」, 全国大学国語教育学会編, 『国語科教育学研究の成果と展望』, pp.161-168, 明治図書, 2013.
- 井上尚美:『思考力育成への方略－メタ認知・自己学習・言語論理－〈増補新版〉』, p.158, 明治図書, 2007.